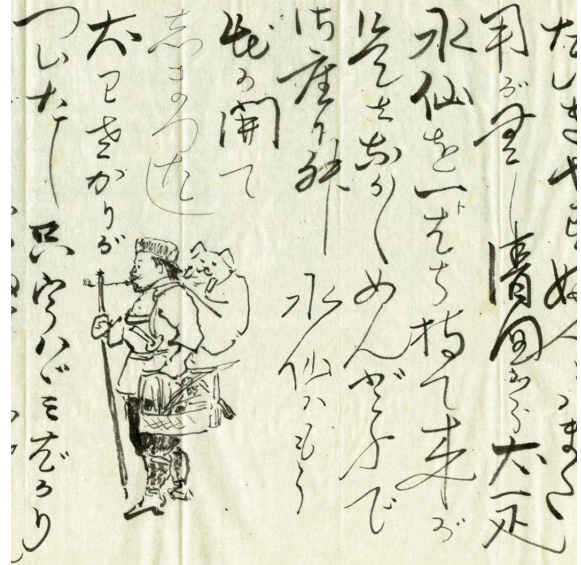


## 近・現代美術に関する調査研究と資料集成(シ03)

**目的** 近・現代美術を対象として日本における展開を軸としつつ、その方向づけに大きく関わった欧米の動向も視野に入れて分析・考察する。あわせて、作家や関係者、及び美術館等の諸機関が所蔵する資料の調査を行い、得られた情報を近・現代美術研究の基礎資料として整備する。

**成果** 1. 当研究所が所蔵する黒田清輝宛書簡について、3度の部内研究会を開き(五姓田義松書簡:2016(平成28)年4月21日、黒田貞子書簡:2016(平成28)年8月30日、山本芳翠書簡:2016(平成28)年12月8日)、また岡田三郎助からの書簡の翻刻を『美術研究』420号に掲載した。



『明治28年4月5日付、黒田清輝宛山本芳翠書簡』より  
日清戦争への従軍後、清国から犬一匹と水仙一鉢を持ち帰った  
山本芳翠自身の姿が描かれている。

2. 谷文晁の画風を近代に伝えた佐竹永海・永湖・永陵についての作品調査を都内で行い(2016(平成28)年8月4日)、松戸市戸定歴史館で開催された「松戸神社神楽殿の絵画と修復展」(2017(平成29)年1月21日~3月5日)の図録と講演会(2017(平成29)年2月5日)でその成果を公表した。
3. 大正期の女流美人画家、栗原玉葉に関する2度の部内研究会を開き(2016(平成28)年6月28日、2017(平成29)年1月12日)、その詳細な評伝を『美術研究』420号に掲載。また玉葉の代表作である《朝妻桜》(大正7年作)について、美術史学会東支部例会で研究発表を行った(2017(平成29)年1月28日)。
4. コンセプトチュアルな作品とパフォーマンスで知られる現代美術家の松澤宥に関する資料調査を、活動の拠点であった下諏訪で行い(2016(平成28)年10月15~16日)、そのアーカイブ構築に向けて研究協議会を開催した(2017(平成29)年3月14日)。
5. 黒田清輝と親交が深く、制作と並行して美術雑誌等で西洋美術の紹介に努めた画家、久米桂一郎の関連資料について共同研究を実施すべく久米美術館と覚書を交わし、資料のデジタル化に着手した。

**論文**・田所泰:「栗原玉葉に関する基礎研究」『美術研究』420 pp.31-68 16.12

・塩谷純:「佐竹永湖一文晁派の伝道者として」『明治21年の佐竹永湖とその周辺 松戸神社神楽殿の絵画と修復展』図録 pp.8-13 17.1

**発表**・山梨絵美子:「生誕150年黒田清輝とその時代」北区赤羽会館講演会 16.9.27

・山梨絵美子:「黒田清輝と五味清吉」岩手県立美術館講演会 17.1.14

・田所泰:「栗原玉葉の《朝妻桜》に関する考察」美術史学会東支部例会 17.1.28

**研究組織** ○塩谷純、橘川英規、城野誠治、田所泰(以上、文化財情報資料部)、山梨絵美子(副所長)、三上豊、丸川雄三、河合大介、田中淳(以上、客員研究員)